ジャパンラグビー　2022年度事業計画

公益財団法人　日本ラグビーフットボール協会

ジャパンラグビー　2022 年度事業計画　目次

ジャパンラグビー　2022 年度計画概要 3

2022 年度事業計画

領域Ⅰ　組織刷新 4

領域Ⅱ　強化 17

領域Ⅲ　普及・育成 21

領域Ⅳ　リーグ改革 24

領域Ⅴ　社会連携 26

活動スケジュール 30

競技運営委員会（大会運営部門） 31

代表強化部門　男子 15 人制 33

代表強化部門　男子 7 人制 34

代表強化部門　女子 15 人制 35

代表強化部門　女子 7 人制 36

専門委員会・諮問委員会 38

普及育成委員会（普及育成部門） 39

安全対策委員会 39

メディカル委員会 40

アンチ・ドーピング委員会 42

アスリート委員会 43

女子委員会 44

ハイパフォーマンス委員会 45

ラグビー競技における

脊髄損傷への再生医療適応プロジェクト 45

支部協会 46

関東ラグビーフットボール協会 47

関西ラグビーフットボール協会 48

九州ラグビーフットボール協会 49

ジャパンラグビー　2022 年度事業計画概要

平素より日本ラグビーフットボール協会事業へのご理解、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。2022 年度における事業計画がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

日本ラグビーフットボール協会では、昨年 3 月に「ジャパンラグビー中期戦略計画 2021-2024」を発表しました。その中で、私どもは 2050 年をゴールとした長期目標として、Mission「ラグビーが世界一身近にある国へ」、Vision「世界のラグビーをリードし、スポーツを越えた社会変革の主体者となる」、Target「再びワールドカップを日本に招致し、世界一になる」を宣言しました。その達成に向けて「協会刷新」「強化」「普及」「リーグ改革」「社会連携」という 5 つの戦略領域に対して、8 つの目標を掲げ、その目標を成し遂げるための 15 項目のアクションプランを策定しました。ここにお示しする事業計画は、長期目標の達成に向けた一歩を確実に踏み出すため、15 のアクションプランごとに、2022 年度に展開・実施すべき戦略事業をまとめたものとなっています。

2023 年にはフランスでラグビーワールドカップが開催されます。初のベスト 8 入りを果たした 2019 年大会からさらなるレベルアップを図るため、代表チームの強化はもとより、選手を支える環境の整備・改善も急務です。また、今年 1 月には、リーグワンが開幕しましたが、今後は、協会、リーグ、チーム、地域がワンチームとなって、事業性を高めながら、社会から必要とされる、存在価値を高めて行けるような新たな取り組みが求められています。

一方で、日本ラグビー界全体としては、選手や指導者などの登録者数が減少傾向にあるのも事実です。これまで以上に、都道府県協会や地方自治体、教育現場などと連携した普及・育成に関わるオールジャパンでの取り組みも非常に重要となっています。

これらの重要な課題に積極果敢に挑戦し、成果を挙げ、実績を残していくためには、協会そのものを強化すべく、組織刷新やガバナンス強化をスピード感を持って進めるとともに、ワールドラグビーが掲げるコアバリュー（品位・情熱・結束・規律・尊重）を体現できる人材の育成にも率先して取り組んで行きます。

昨年 9 月に発表した「ダイバーシティ＆インクルージョン推進宣言」でお示しした通り「ラグビーが持つ、人々を感動させ、心動かす力」を通じて、社会に貢献するとともに、ラグビーの真価を発揮し、誰もが生きやすい共生社会の実現に向けて取り組んで参ります。ラグビーに関わる全ての皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

2022 年度事業計画

領域Ⅰ　協会刷新

目標１　抜本的に組織を見直し、理念実現のための強固な経営基盤をつくる

目標２　経営の安定化を図り、未来への投資を拡充させるための財務基盤を確保する

目標３　安全で、誠実なラグビーを通じてラグビー憲章を守る

目標１　抜本的に組織を見直し、理念実現のための強固な経営基盤をつくる

アクションプラン１　組織基盤の強化　【COS/戦略計画推進室】

事業計画	具体的施策	関連部門	予算管轄
1.組織強化	・組織規程と、それに関連する業務分掌、決裁権限、委員会や会議体に関わる規程などを見直し、事業遂行部門による遂行体制を強化する ・アニュアルレポート（日英）の改善や、情報開示・発信を強化すると同時に、情報管理の強化とルール作りを行い、適時・適切な情報の発信を実現する ・内部監査体制と機能の強化により、内部統制システムを強化する	総務部門、内部監査室	総務部門
2.人事戦略	・人事戦略・人材育成計画を策定し、これに伴う必要な制度変更を実行する ・国際人材育成のため、JOC 国際人養成講座への参加や海外研修・留学制度、教育支援制度のブラッシュアップを実施する他、JOC の IF 派遣事業などの活用を検討する ・職員と地域人材の育成のため、外部コンテンツを活用したスポーツマネジメント人材育成のためのプログラムを導入する	総務部門（人事）、普及育成部門	総務部門（人事）、普及育成部門

事業計画	具体的施策	関連部門	予算管轄
3.ガバナンス強化	・定期的な連絡会・全国都道府県理事長会議（年 2 回）を実施し、支部協会/都道府県協会との一層のコミュニケーションを行い、有機的な連携体制を構築する ・都道府県協会ガバナンス強化事業を継続し、問い合わせ対応（法務・財務)、ガバナンスコード評価支援、ガバナンス関連研修の開催、都道府県協会運営資料の共有などを行い、法人化やガバナンス強化の支援を行う ・適合性審査に向けて、支部協会と連携した規程の制定・改訂など、必要な対応を実施する	インテグリティ推進部門、業務推進部門	インテグリティ推進部門、業務推進部門
4.国際戦略	・国際戦略の検討および遂行体制を再検討し、整備する ・SWS の新規フォーマットの情報をキャッチアップし、ホスト獲得の可能性を検討し決定する	国際部門、大会運営部門	

アクションプラン２　コミュニケーションの強化　【COO/広報部門】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.各種取り組みに関するコミュニケーション計画の策定および成果のレビューの徹底	・女子代表 W 杯出場に伴う広報強化施策（人員体制強化、オウンドメディア発信拡充、女子専用デジタルプラットフォームの構築）を実施する ・リーグワンとの広報連携体制の構築と RWC2023 へ向けた機運醸成策を展開する	マーケティング部門、プロモーション部門、代表強化部門、普及育成部門、インテグリティ推進部門	広報部門、マーケティング部門、プロモーション部門
2.英語によるメディア対応・情報発信の拡充	・ジャパンラグビーの動向が恒常的に海外で報道されるためのリリース・オペレーション（会見・取材対応など）の強化を図る	国際部門	広報部門
3.デジタル専門チームの編成、効果測定の強化	・WEB マスターを配置するなど、公式ホームページ（日英）の改善を進める ・日本代表ビデオグラファーの配置や外部専門家の活用（デザイン、データ分析など）を通じて、動画オリジナルコンテンツの定期配信を開始する	マーケティング部門、プロモーション部門	マーケティング部門、プロモーション部門
4.外部メディアへの継続的な取材機会の提供	・写真動画素材の保管・提供サービスの最適化を図る ・メディアツアーの企画実施などを通して、マスメディアリレーションズの強化を図る	メディア事業部門	広報部門

アクションプラン３　システム・データ活用の最大化　【CEO/戦略計画推進室】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.全体アーキテクチャー設計と実装	・ラグビー界の DX 化を推進するため、全体アーキテクチャーを検討する ・ID 統合（1 個人 1ID 化）によるシングルサインオンを導入する（2022 年度は「見る人」レイヤーの ID 統合を実施し 2023 年度以降は「する人」「支える人」の ID 統合を目指す）	全部門	戦略計画推進室
2.各サービスの DX 化	・ラグビーに関わるサービスを分類・体系化し、2024 年度末までに各サービスの DX 化とデータ統合の実現を目指す (1)プレイヤーズ DX（選手、MO、関係者などの DX 化）2024 年度本格稼働に向け、規約の整理やあるべき姿について検討する (2)ゲーム DX（大会運営の DX 化）2024 年度本格稼働に向け、大会運営システムの現行課題、業務フローについて整理検討する (3)スタジアム観戦 DX（スタジアム観戦体験の DX 化）チケット購入に関する UI 改善、UX 向上を行う	全部門	戦略計画推進室

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
	(4)コミュニティ DX（MD、映像配信などの試合観戦以外のサービスの DX 化）統合 EC サイトの構築、映像配信事業モデルの検討を行う (5)ハイパフォーマンス DX（ハイパフォーマンスデータの DX 化）2024 年度本格稼働に向け、トップレベルのパフォーマンスデータの統合管理を検討する (6)スポーツウェルフェア DX（メディカルデータなどの DX 化）2024 年度本格稼働に向け、データ統合管理の検討を行う (7)オフィス DX（各業務の DX 化）		
3.トータルデジタルマーケティングの実現	・データを活用したマーケティングを行うための環境の整備とマーケティング活動を展開する (1)データ活用（データドリブン）と、データによる業務支援 (2)UX デザイン (3)VOC（ヴォイスオブカスタマー）に基づく改善、アップデートの仕組みづくり	全部門	戦略計画推進室

目標２　経営の安定化を図り、未来への投資を拡充させるための財務基盤を確保する

アクションプラン４　既存事業の価値最大化と収益機会の多様化　【CMO/マーケティング部門・メディア事業部門】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.マーケティング計画推進のための体制強化(各種ステークホルダーとのパートナーシップ推進)	・関係団体や支部協会との協業や広告代理店との連携強化を通して、既存協賛社とのリレーション強化と新規協賛社の獲得を図る		マーケティング部門
2.日本代表スポンサー/各種大会スポンサーの獲得(日本ラグビーのドライバーである日本代表マーケティングプログラムを軸としたコマーシャル収入最大化、各スポンサーニーズを反映した企画開発とセールスの向上)	・新設マーケティングプログラムによるセールスを拡大し、新規スポンサーの獲得とアクティベーション機会の創出を図る ・ウィズコロナに対応し、セールス方法を改善し、大会スポンサーの確保や新設大会の検討を行う		マーケティング部門
3.日本代表戦を中心とした地上波放送本数の増加と新規ファン層への視聴機会創出の強化（放送・配信権）	・放送、配信業界の環境変化に対応したメディア戦略を設計する ・視聴ターゲットに即した新規パートナーシップの更なる関係構築を図り、日本代表戦を中心とした PV の拡大による体験型視聴機会の推進を行う		メディア事業部門、マーケティング部門

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
4.戦略コミュニケーションの強化による F1 や Teen 層への積極的なアプローチ、仕掛けの創出（ファンエンゲージメント）	・RWC2023 でのファンエンゲージメントの最大値を目指した戦略コミュニケーションの設計、運用体制の強化、顧客ニーズ基点での SNS 発信の拡大を図る	プロモーション部門、広報部門	マーケティング部門、プロモーション部門、広報部門
5.日本ラグビーのブランディング推進(各種大会やコンテンツのリブランディング)	・ブレイブブロッサムズに次ぐ、女子 15 人制と男女 7 人制代表の大会と連動したリブランディングの強化を図る ・新規 VI やブランディング動画、大会特設 PF などの制作を全国大学選手権、全国高校大会、太陽生命 WSS、各普及大会などを対象に展開する	プロモーション部門、広報部門	マーケティング部門

アクションプラン５　既存意識を超えた新たな分野への挑戦　【COO/大会運営部門】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.男子15人制日本代表戦における獲得収益の最大化	・国際大会における日本代表チーム強化による注目度の向上に繋げるため、国際基準の競技運営を遂行し、世界大会の運営水準を参考にしながらお客様の新規来場、リピート率向上につながるサービス水準（ホスピタリティ、会場演出など）の向上を図る ・試合会場での飲食事業展開による収益獲得を目指す（テストマッチ１試合収益50万円）	マーケティング部門、プロモーション部門、メディア事業部門、広報部門	大会運営部門
2.収益改善に繋げるための女子７人制国内大会における会場運営体制、運営水準の向上	・国際大会における競技者強化による注目度の向上に繋げるため、国際基準の競技運営を遂行すべく、運営水準を向上させる ・スポンサーニーズの取り込み、さらなる期待値向上につながる来場者サービス水準（ホスピタリティ、会場演出など）の向上を図る	メディア事業部門、マーケティング部門	大会運営部門
3.収入獲得に向けた女子15人制国内大会の大会設計の見直し	・全国女子選手権において日本一のチームを決定する場に見合い、スポンサーや外部ステークホルダーの支援取り込みにつながる競技運営、会場運営のサービス水準の向上を図る	メディア事業部門、マーケティング部門	大会運営部門、女子委員会

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
4.各大会における収益改善を見越した大会全体の水準向上ができうるマネージャー人材の育成	・国際水準の競技運営を基礎する知見を共有するとともに、ワールドラグビーのマッチコミッショナー養成プログラムを国内に導入し、大会開催時に国際水準の競技運営が容易に遂行でき、ステークホルダーへの付加価値を提供するサービス事業を展開するための人材育成、体制構築を図る ・他競技、他興行からの知見獲得と有益な取り組みのラグビーへの転化を図り、国内大会レベルで対応できるマッチマネジャー4 名、ベニューマネジャー4 名を育成する		大会運営部門、総務（人事）

アクションプラン６　非イベント収入機会の確保と強化　【COS/業務推進部門・総務部門】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.JRFU 基金制度の発展	・対価・特典の設計、寄付金用途の整備、JRFU メンバーズクラブ、スクラムジャパンプログラムとの連携を図りながら、制度の見直しを検討する		業務推進部門
2.国・自治体・スポーツ管理団体との事業連携	・国・自治体への要件・要望に関する集約・渉外調整（代表活動、普及活動など）を行う ・ラグビー関連の助成事業の計画整理を進め、ラグビー関連の助成・公募事業（委託事業、助成金・交付金事業）の獲得に繋げる ・自治体連携協議会（自治体ワンチーム）と連携を図り、協力団体向けラグビープロモーション連携として、各種ツールの整備（告知物、リーフレット、プロパティ活用、報告書など）を行う ・RWC 再招致に向けた計画化と基盤整備など、必要となる準備活動に着手する		業務推進部門
3.スクラムジャパンプログラム（SJP）活動の積極的推進	・都道府県協会の普及育成における体制整備と事業の洗い出しを通して、SJP 事業としての社会的価値の整理と情報発信の強化を行う	普及育成部門	普及育成部門
4.補助金・助成金活用のための体制整備	・中央省庁の補助金・助成金に対し、協会としての体制整備（既存、新規事業の整理と確保）を行う		業務推進部門

アクションプラン７　財務計画・管理システムの強化　【CFO/財務部門】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.中期収支計画の見直し	・各部門の前年度実績および今年度進捗を踏まえて、中期収支計画の見直し検討を行う ・中期収支計画に沿った 2023 年度予算策定方針を検討・提案する	戦略計画推進室	
2.予算管理・会計システムの改善	・稟議申請および経費申請の電子化推進による事務効率化を図るとともに、予実管理の効率化を目指した新会計システムについての情報収集を行い、導入可否を検討する	戦略計画推進室	総務部門、財務部門
3.資産運用・規定見直し	・関連規定の見直しと規定に沿った運用方針に関する提案を行う ・定期的に運用実績の報告を行う	戦略計画推進室、総務部門	

目標３　安全で、誠実なラグビーを通じてラグビー憲章を守る

アクションプラン８　ラグビーへの信頼を維持・確保　【COS/インテグリティ推進部門・安全対策委員会】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.コンプライアンス体制の強化	・都道府県協会の体制を整備するとともに、リーグワンとの連携を強化する ・アンチ・ドーピングについて、啓発活動の展開と検査支援を実施する ・処分履歴のデータベースを整備し、適切な処分を実施する		インテグリティ推進部門
2.インテグリティ推進活動の展開	・研修体系を整備し、フェアプレーに関する発信・教育（未成年カテゴリー向け、含むコアバリュー）を推進する ・インテグリティ相談窓口の改善を図る（窓口体制の強化、匿名対応）		インテグリティ推進部門
3.安全管理体制の再整備	・KPI 評価プロセスを確立するとともに、メディカル体制の見直しを行う。安全に関する情報提供については、外部情報の取り込みも含めた再設計を行う		安全対策委員会

2022 年度事業計画

領域 II　強　化

目標 4　代表チームを支える環境を整備し、すべてのラグビー日本代表を戦略的に強化する

目標４　代表チームを支える環境を整備し、すべてのラグビー日本代表を戦略的に強化する

アクションプラン９　選手の環境と価値を守る　【CRO/代表強化部門】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.プレイヤーウェルフェアの推進	・JRFU としてのプレイヤーウェルフェアの要件を整理する ・高校カテゴリーにおける、JRFU 主催大会での試合間隔や試合数について検証する	普及育成部門、安全対策委員会、総務部門、アスリート委員会、ユース委員会	
2.リーグワンと連携した代表選手派遣環境の整備	・担当者を配置し、リーグワンと連携した国内カレンダーの調整を行う ・7 人制男子代表選手派遣の円滑化のため、リーグワンと大会ルールや派遣方法の協議を実施する	法務部門、リーグワン	
3.選手データの収集を通じた選手の身体特性の把握とデータ活用の推進	・ONETAP や SCOT を活用し、情報システムの充実を図る ・SCOT システムの運用については、リーグワンや大学チームと連携しながら JRFU としての判断を行う	プロモーション部門（IT)、戦略計画推進室、リーグワン	

アクションプラン 10　多くの関係者・ファンが代表を支える環境の提供　【CMO/プロモーション部門】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.日本代表戦の収益最大化	・代表戦：平均単価 9,500 円以上、集客 3 万人以上/試合（ティア 1 想定）を目指す ・Ticket RUGBY システムの改修を行い UI/UX の改善を図る	広報部門、マーケティング部門、大会運営部門	プロモーション部門
2.ラグビーファン ID を軸としたファンエンゲージメント	・ラグビーファン ID を潜在・ライト・コア・熱狂と 4 つにカテゴライズし、継続的な情報発信を行い、各種事業との連携を図る（ID 数目標：21 万人→23 万人）	広報部門、マーケティング部門、大会運営部門	プロモーション部門
3.代表特化型の JAPAN RUGBY SAKURA CLUB による代表ブランディングの浸透	・代表チケットの先行販売、代表協賛社アクテビティとの連動を通して安定収入を獲得する ・新規会員獲得に向けた施策を実施する（目標会員数 35,000 人）	広報部門、マーケティング部門、大会運営部門	プロモーション部門
4.年間を通じたマーチャンダイジング計画による収益強化	・年間を通じた商品開発、ライセンシーの新規開拓を展開し、MD 関連収入 800 万円を目指す	広報部門、マーケティング部門、大会運営部門	プロモーション部門

アクションプラン 11　ハイパフォーマンス（HP）プログラムのさらなる強化　【CRO/技術部門】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.HP 支援のための体制整備	・組織体制（管理企画と専門分野）を確立する ・拠点整備を図り、競技力向上のための施策を策定する（競技力向上のために設置すべき HP 機能・施設検討、各カテゴリー代表強化、ユース育成、マッチオフィシャル養成）	代表強化部門、戦略計画推進室、ユース委員会、アスリート委員会	代表強化部門、技術部門
2.強化と育成の連携体制	・パスウェイを整備し、多角的な日本ラグビーの検討（情報収集・発信、分析）を行う（年代に適したコーチング教材の体系化と実地、ユース以下カテゴリーにおける競技規則、コーチング、安全、プレー環境の調査）	代表強化部門、普及育成部門、ユース委員会、安全対策委員会	代表強化部門、技術部門、普及育成部門
3.スタッフ啓発・育成のための体制づくり	・各プログラム（計画）を策定する（コーチ、マネジメント、評価システム構築と運用、ユースコーチ・リソースコーチ制度の整理）	代表強化部門、普及育成部門	技術部門

2022 年度事業計画

領域Ⅲ　普及・育成

目標 5　誰でも、いつでも、どこでも楽しめるラグビー社会をつくる

目標５　誰でも、いつでも、どこでも楽しめるラグビー社会をつくる

アクションプラン 12　RWC2019 レガシーと普及環境の整備　【CRO/普及育成部門】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.必要な資源（人材、拠点、資金、情報）の質・量を高める	・指導者・レフリーの質と量の向上を図るため、指導者養成講習会・研修会を開催する ・中高生のプレー機会を創出するため、活動拠点の整備を行う ・スクラムジャパンプログラムなどの財政基盤の強化による資金獲得並びに都道府県別ポートフォリオの枠組みを整備して活用につなげる	技術部門、女子委員会、マーケティング部門、業務推進部門、総務部門	
2.全国の協会やクラブ、チームの取り組みを支える	・使いやすい情報コミュニケーションツールとして、新しい普及育成の HP を中心とした情報発信に取り組む ・RDO の発掘・採用・育成を中心にマネジメント人材の養成と配置を行い、都道府県協会や自治体との連携強化やリーグワンとの普及育成に関する共同体制を確立する	広報部門、総務部門、業務推進部門	

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
3.より安心安全にプレーを続けられる環境を整える	・スクール（タグ・ミニ・ジュニア）ラグビーの拡充のため、JRFU 主催大会の改善を図る ・合同チーム、クラブチームを対象としたテストイベントの実施などを通して、中高生のプレー環境の改革や女子ラグビーの普及育成基盤づくりを行う ・心と身体の安心・安全を目指して、他国や他競技の取り組みなど、プレイヤーウェルフェアの情報を整理して発信する	大会運営部門、マーケティング部門、広報部門、技術部門、女子委員会、インテグリティ推進部門	
4.ラグビーの楽しさや価値をより多くの人々に広める	・ラグビー参画者を拡大すべく、性別や年齢、障がいなどに関わらずラグビーを楽しめるプログラムと、学校と社会における教育プログラムの整備を推進する ・各国協会や政府機関、NGO とパートナーシップを強化して、アジアンスクラムプロジェクトなどの国際協力プログラムを推進する	業務推進部門、広報部門、インテグリティ推進部門、国際部門	

2022 年度事業計画

領域IV　リーグ改革

目標 6　ラグビーファンが熱狂する舞台をつくる

目標 6　ラグビーファンが熱狂する舞台をつくる

アクションプラン 13　ラグビーファンが熱狂する舞台をつくる　【CEO/戦略計画推進室】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.事業性の追求	・会員組織運営、データに基づくチケッティング、再来場意向を高める大会運営などを通して、リーグワンと代表チームのブランド力を高める	プロモーション部門、大会運営部門、リーグワン	
2.社会性の向上	・リーグ、地方自治体、都道府県協会などとの連携を深めるとともに、各チームの社会事業を支援する	業務推進部門、リーグワン	
3.人と技術を育てる	・各種研修や講習について、リーグワンと合同開催することを通して、人材を育成する	総務部門（人事)、リーグワン	

2022 年度事業計画

領域Ⅴ　社会連携

目標７　ラグビーのチカラを使って、社会の役に立ち、世界を守る

目標８　ラグビーが起点となって日本に新しい産業をうみだす

目標 7　ラグビーのチカラを使って、社会の役に立ち、世界を守る

アクションプラン 14　社会連携、国際連携のための体制確立　【COS/国際部門・普及育成部門】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.SDGs,CSR 活動の継続実施のための体制確保	・既存の社会連携活動を整理し、事業としての推進が可能な活動については、積極的な情報発信を行う	全部門、広報部門	
2.国際貢献活動の継続と強化	・既存の国際連携活動を整理し、事業としての推進が可能な活動については、海外を含めた情報発信を行なうための体制を整備する	広報部門	
3.JOC などの関連団体や行政機関との連携	・JOC やスポーツ庁との連携を図り、国際協力体制を整備する	広報部門	

目標８　ラグビーが起点となって日本に新しい産業をうみだす

アクションプラン 15　有形、無形のラグビー資産を社会や経済活動へ結びつける　【CEO/戦略計画推進室】

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
1.合同事業会社立ち上げに向けて	・リーグワンとの合同による事業企画と事業会社設立準備に関わる業務及びリーグワンのマーケティングに関わる運営業務を推進する		
2.ナショナルトレーニングセンターの事業化に向けて	・代表強化拠点の整備に向けた検討を行う ・当該拠点におけるホスピタリティ事業の展開、トレーニングデータ/医科学データの活用について検討を行う	代表強化部門、普及育成部門、技術部門	戦略計画推進室

事業計画	具体的施策	関係部門	予算管轄
	・ホスピタリティ事業を展開する (1)サブグラウンドの市民利用の促進 (2)クラブハウスを利用したホスピタリティサービスの計画作成 (3)サブグラウンド整備などフェーズ B 工事（人工芝･観客席など）の準備 ・トレーニングデータ/医科学データを活用する (1)HP センターとしての事業内容の検討 (2)クリニック併設に向けた検討		
3.デジタルファンエンゲージメント事業の事業化に向けて	・データ基盤を整備し、JRFU・リーグワン・参加チームとも通顧客 DB を開発、運用を開始する ・サービス/アプリ・システムを展開する (1)スタジアム誘客に向けた、デジタルツールを活用したプロモーション施策の実行 (2)新チケッティング PF の構想策定 (3)新スタジアム観戦体験の実現 (4)JRFU・リーグワンの EC システム統合 (5)動画コンテンツを活用した新サービス実現 (6)ゲーミフィケーション事業の構想策定		

活動スケジュール

競技運営委員会（大会運営部門）

代表強化部門　男子 15 人制

代表強化部門　男子 7 人制

代表強化部門　女子 15 人制

代表強化部門　女子 7 人制

競技運営委員会（大会運営部門）

JRFU 各種大会の実施要項の策定と競技運営、会場運営の計画設計を行い、円滑な大会運営を行うと同時に競技者のみならず、内外ステークホルダー、ファンの皆様へのサービス提供を行う

大会運営部門

主催大会スケジュール

1.国際試合

(1)男子 15 人制日本代表戦

テストマッチ国内開催（6～7 月、10～11 月）

(2)女子 15 人制日本代表戦

テストマッチ国内開催（8 月）

2.太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2022

シリーズとして全 4 大会を開催（4～6 月）

3.第 59 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会

14 チームによるトーナメント方式（1 回戦、2 回戦、3 回戦、準々決勝、準決勝、決勝、全 13 試合）1 回戦は 11 月第 3 週末、決勝は 1 月第 2 週末）

4.第 73 回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会

14 チームによるトーナメント方式（1 回戦、準決勝、決勝の全 7 試合）12 月下旬から 1 月上旬開催（瑞穂）

大学大会部門

大学ラグビー全国大会の実施要項の協議、並びに大会発展のための施策検討を行う部門会を開催

国体部門

1.第 77 回栃木国体（いちご一会とちぎ国体、10 月 2～6 日、佐野市運動公園）

2.第 78 回大会以降の開催県・開催地・県協会、および日本スポーツ協会と打合せを実施

社会人部門

1.支部協会主催、各社会人リーグの普及・発展・強化のための施施策検討・実施

2.社会人リーグ交流戦実施の検討

3.リーグワン創設に伴う、リーグと支部協会を含む JRFU との連携（新規参入などの協議）

クラブ大会部門

1.第 30 回全国クラブラグビーフットボール大会

1 回戦は 1 月 8 日、2 回戦 22 日、準決勝 2 月 5 日、決勝 19 日予定。12 チーム（関東 4、関西 4、九州 3、2021 年度優勝地域 1）

2.学生クラブ東西交流フェスティバル in 菅平 2022

9 月 2～4 日、20 チーム参加、交流戦および安全対策・指導者・レフリー各講習会を実施

3.第 21 回東西学生クラブ対抗試合（12 月 18 日、熊谷）

4.クラブユース交流試合（兼クラブユース U19）

3 月開催（支部協会推薦チームが参加）

5.部門会

6 月（東京）および 2 月（愛知）にて開催。各大会運営・日程・大会概要協議並びに支部協会管下クラブ環境の情報交換など

高校大会部門

1.高校大会・研修会

(1)サニックスワールドラグビーユース交流大会 2022

4 月 28 日～5 月 5 日（福岡）

(2)第 9 回全国高校 7 人制ラグビーフットボール大会

7 月 15 日～18 日（菅平）

(3)第 18 回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会

7 月 28～31 日（菅平）

(4)第 53 回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会

1 月 4～9 日（神戸）

(5)第 102 回全国高等学校ラグビーフットボール大会

12 月 27 日～1 月 7 日（花園）

(6)第 14 回U18 合同チーム東西対抗　1 月 7 日（花園）

(7)第 47 回高等学校指導者研修会　1 月 6～8 日（東京）

(8)第 24 回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会

3 月 24～31 日（熊谷）

2.高校女子大会

（1）サニックスワールドラグビーユース交流大会 2022

4 月 28～29 日（福岡）

（2）第 12 回全国高等学校女子合同チームラグビー大会

7 月 28～31 日（菅平）

（3）第 6 回全国U18 女子セブンズラグビーフットボール大会

10 月 21～23 日（熊谷）

（4）U18 花園女子ラグビー　12 月 27 日（花園）

代表強化部門　男子 15 人制

1.事業計画

(1)テストマッチ・プレマッチ、それに係わる強化キャンプを通じ、選手層拡大と国際経験値の向上を図る
(2)リーグワンとの連携し、国内シーズンスケジュールにおいて代表強化に基づいた策定協力を進める
(3)リーグワンの新たな枠組みの中で、選手育成方法についての検討、協力体制を構築する
(4)次世代の育成・強化策として、NDS（National Development Squad）を再開し、2023 年 2027 年 RWC に向けた、選手発掘を進める（NDS とは、将来日本代表に選出される可能性のある高いポテンシャルを持った人材を招集し、日本代表のマインドセットを共有することで、将来日本代表に選出された際にスムーズな合流を目指す取り組みのこと）

男子 15 人制日本代表

1.強化ポイント/目標

(1)インテグリティ（規律厳守）
(2)COVID-19 感染予防および危機管理対策の徹底
(3)プレイヤーウェルフェア
(4)Tier1/Tier2 との継続的なマッチメイクによる代表強化の推進
(5)ストレングス能力およびスピード力の向上
(6)代表活動とリーグワンとの協力体制の整備
(7)リーグワンと連携した、選手発掘・育成の推進（代表としてのマインドセットと国際経験値向上）
(8)RWC2027、RWC2031 を見据えた代表スタッフの育成
(9)拠点を活用した強化の推進

2.活動スケジュール

(1)プレマッチ　10 月 15 日（未定）
(2)テストマッチ
　6 月 18 日　ウルグアイ代表（秩父宮）
　6 月 25 日　ウルグアイ代表（北九州）
　7 月 2 日　フランス代表（豊田）
　7 月 9 日　フランス代表（国立）
　10 月 22 日（未定）
(3)キャンプ
　5 月 13～15 日、5 月 23～27 日、6 月 3～13 日、6 月 16 日～7 月 10 日、9 月 2～8 日、9 月 18～29 日、10 月 2～27 日
(4)海外遠征
　10 月 28 日～11 月 21 日（欧州）

NDS（National Development Squad）

1.強化ポイント/目標

(1)インテグリティ（規律厳守）
(2)COVID-19 感染予防および危機管理対策の徹底
(3)プレイヤーウェルフェア

(4)ストレングス能力およびスピード力の向上
(5)選手層のベース再構築と発掘
(6)拠点を活用した強化の推進

2.活動スケジュール
(1)強化試合　6 月 11、24 日、10 月 1、8 日（未定）
(2)キャンプ
　5 月 13～15 日、5 月 23～27 日、6 月 3～25 日、9 月 2～8 日、9 月 11～22 日、9 月 25 日～10 月 9 日

代表強化部門　男子 7 人制

1.目標
(1)World Rugby Sevens Series 2022 コアチームのステイタスを維持
(2)第 19 回アジア競技大会（杭州）の金メダル獲得
(3)Asia Rugby Sevens Series 総合優勝
(4)World Rugby Sevens Series2023 上位（ベスト 8 以上）進出

2.強化ポイント
(1)フルタイム（専任契約）プログラム
(2)SDS および代表活動 150 日以上で SC 強化・スキル強化を実施
(3)世界的知見の導入（選手およびコーチ育成プログラムの実施）
(4)スポーツ医科学サポートによるコンディショニングアップ（栄養、睡眠、リカバリーなど）

3.活動スケジュール
(1)国際大会への出場（地域大会）
　ワールドシリーズ　シンガポール大会（4 月 9～10 日）、バンクーバー大会（4 月 16～17 日）、フランス大会（5 月 20～22 日）、イングランド大会（5 月 28～29 日）、LA 大会（8 月 27～28 日）
(2)第 19 回アジア競技大会（9 月 21～24 日杭州）
(3)Asia Rugby Sevens Series　3 大会への参加（9～10 月）

(4)World Rugby Sevens Series 2022-2023 シリーズ（ドバイ、南アフリカ、オーストラリア、NZ、アメリカ、カナダ、香港、シンガポール、ロンドン、パリ、上記から数大会予定）
(5)海外遠征（未定）
(6)国内合宿（13 回）
(7)海外合宿（未定）

男子セブンズユースアカデミー

1.目標

(1)シニアアカデミー・SDS への選手の多数輩出
(2)男子セブンズ代表合宿への多数の優秀選手の派遣

2.強化ポイント

(1)有能な選手の発掘と育成
(2)強化育成プログラムによる一貫指導
(3)ベーシックスキルの向上
(4)SC 能力の向上
(5)人間力の向上

3.活動スケジュール

4 月 4 日間、7 月 4 日間、8 月 4 日間、9 月 4 日間、10 月 4 日間、強化合宿（10 月）国際大会（11 月）、アジアユースゲームズ（12 月、中国）、2 月 4 日間、3 月 4 日間

代表強化部門　女子 15 人制

1.目標

(1)海外遠征・テストマッチ勝利
(2)ワールドカップ 2021（プレイング 2022）トップ 8 以上
(3)アジアラグビーチャンピオンシップ全勝優勝

2.強化ポイント

(1)中長期を見据えた選手発掘と若手育成
(2)ワールドカップ 2021（プレイング 2022）トップ 8 実現のためのマインドセットの確立
(3)ワールドスタンダードの S&C とカラダ作り
(4)戦術戦略の落とし込み・理解の徹底によりパフォーマンスの向上
(5)選手のラグビー理解の向上に伴うプログラムの提供

3.活動スケジュール

(1)キャンプ

海外遠征（4～5 月、オーストラリア）、隔離期間/強化・TID 合同合宿（6 月）、代表合宿（国内）、強化・TID 合同合宿もしくは強化遠征（7 月）、強化・TID 合同合宿（8 月）、壮行試合/代表合宿（8 月）、直前合宿・ウォームアップゲーム（9 月）、ワールドカップ 2021 プレイング 2022（10～11 月ニュージーランド）、TID ユースキャンプ（1～2 月、2 回）、強化・TID 合同合宿（3 月）

(2)テストマッチ
5月（未定)、8月（未定)、9月（未定）
(3)ワールドカップ 2021 プレイイング 2022（10月8日～11月12日、ニュージーランド）
予選　10月9日カナダ、15日アメリカ、23日イタリア、準々決勝 10月29～30日、準決勝 11月5日、決勝 11月12日

代表強化部門　女子7人制

1.目標
(1)World Rugby Sevens Challenger Series 優勝およびコアチーム昇格
(2)Rugby World Cup Sevens 2022 ベスト8
(3)第19回アジア競技大会（2022/杭州）の金メダル獲得
(4)Asia Rugby Sevens Series 総合優勝
(5)World Rugby Sevens Series 2023 上位（ベスト8以上）進出

2.強化ポイント
(1)競技別強化拠点（熊谷）集約型による集中強化
(2)競技別強化拠点（熊谷）の更なる環境整備・機能強化
(3)SDS および代表活動 200 日以上で S&C、スキル強化を実施
(4)世界的知見の導入（選手およびコーチ育成プログラムの実施）
(5)スポーツ医科学サポートによるコンディショニングアップ（栄養・睡眠・リカバリー）

3.活動スケジュール
(1)国際大会への出場（地域大会）ドバイセブンズ（12月）
(2)Rugby World Cup Sevens 2022（9月9～11日、南アフリカ）
(3)第19回アジア競技大会（9月22～24日、杭州）
(4)Asia Rugby Sevens Series　3大会への参加（9～10月、韓国、中国、スリランカ）

(5)World Rugby Challenger Series 2021-2022　2大会予定(4～5月)
(6)World Rugby World Sevens Series 2022-2023への昇格チーム決定のための大会
(7)国内合宿　14回
(8)海外合宿　3回（イングランド、アメリカなど）

女子セブンズユースアカデミー

1.目標

(1)ユースエリート選手のSDSへ多数輩出
(2)女子セブンズ代表合宿などへの多数の優秀選手の派遣

2.強化ポイント

(1)有能な選手の発掘と育成
(2)強化育成プログラムによる一貫指導
(3)ベーシックスキルの向上
(4)SC能力の向上
(5)人間力の向上

3.活動スケジュール

4月3日間（大分)、太陽生命WSS2022（4月、次世代ターゲット支援育成事業)、太陽生命WSS2022（5月、次世代ターゲット支援育成事業)、太陽生命WSS2022（6月)、7月3日間、8月4日間、9月4日間、11月4日間、国際大会参加予定（12月)、アジアユースゲームズ（12月、中国)、1月3日間（埼玉)、2月3日間（埼玉）

専門委員会・諮問委員会

普及育成委員会（普及育成部門）

安全対策委員会

メディカル委員会

アンチ・ドーピング委員会

アスリート委員会

女子委員会

ハイパフォーマンス委員会

ラグビー競技における脊髄損傷への再生医療適応プロジェクト

普及育成委員会（普及育成部門）

1.活動スケジュール

(1)太陽生命カップ 2022 第 13 回全国中学生ラグビー大会
　9 月（水戸）
(2)第 28 回全国ジュニアラグビーフットボール大会　12 月（東京）
(3)全国小学生タグラグビー選手権大会（未定）
(4)FOR ALL ミニラグビーフレンドリーマッチ（未定）
(5)指導者者講習会
(6)開催自治体連携
(7)国際協力事業

安全対策委員会

1.活動方針

(1)重症事故の再発を防止し、重症事故撲滅を図るべく発生事故に対する調査・分析・研究を行い、対策を検討する
(2)チーム責任者などに、重症事故撲滅およびインテグリティの意識付けを行い、チーム内においてチームの責任者が事故撲滅の啓発活動の牽引役を担い、自ら事故撲滅・安全推進活動を展開できる組織的なサポートを実行する

2.事業計画

(1)委員会の開催
　重症事故の速やかな対応・分析を図るとともに、各都道府県での安全推進講習会の実施状況や次年度の重点項目を策定するため年間 4 回委員会を開催
(2)安全インテグリティ推進講習会
　「重症事故の撲滅」と「安全なラグビーとインテグリティの追求」の徹底を図る（マニュアルの作成と管理、オンライン講習
(3)セーフティーアシスタント認定講習会
　セーフティーアシスタントとしての新たな制度の運営を図る（オンラインでの講習会提供、認定証発行、認定者の管理、受講アンケートの集計と改善対応）

(4)連携

普及育成委員会、競技運営委員会などとの連携を一層強化し、外傷・傷害の減少を図る

3.活動スケジュール

(1)安全対策委員会（6 月、9 月、12 月、3 月）

(2)安全対策講習会（各都道府県協会にて 6～8 月にかけて開催）

(3)安全インテグリティ推進講習会（～2 月 28 日）

(4)セーフティーアシスタント認定講習会

メディカル委員会

1.活動方針

支部協会協会および都道府県医務委員会間の整合性をとりながら広範な医学的支援を実施

(1)支部協会連絡協議会の開催

(2)JRFU 主催試合医務担当

(3)日本代表チームメディカル部門担当（含む海外遠征帯同ドクター派遣）

(4)リーグワン・メディカルコントロール部会への協力

(5)マッチディドクター（チームドクター含む）の養成

(6)ラグビードクターカンファレンスの開催

(7)アジア協会加盟国への協力

(8)JOC、スポーツ協会、JISS との連携強化および他必要な事業

(9)女子委員会への医学的支援

2.事業計画

(1)委員会・医事担当部門会議、支部協会連絡協議会

(2)医務担当・JRFU 主催試合（主管協会と連携）

(3)各カテゴリー日本代表チームメディカル担当（含む海外遠征）

(4)ラグビードクターカンファレンスの開催

(5)World Rugby メディカルカンファレンスへの派遣（World Rugby マッチディドクター資格の取得推進）

(6)アジア協会主催試合へのマッチディドクター派遣

3.活動スケジュール

(1)メディカル委員会総会　3 月

(2)支部協会連絡協議会　11 月

(3)第 7 回ラグビードクターカンファレンス　2 月

トレーナー部門

1.活動方針

プレイヤーの健康管理、外傷・傷害予防、パフォーマンス発揮を支援する環境整備の立案、組織横断的協同事業の提案、実施、人材の育成

(1)人材育成事業（ラグビートレーナー育成）

(2)ハイパフォーマンス委員会（代表強化部門、技術部門)、普及育成委員会、女子委員会、安全対策委員会、アンチ・ドーピング委員会、競技運営委員会との連携

(3)代表強化部門、リーグワンとの積極的連携

(4)女子ラグビー環境へのアスレティックトレーナー的支援

(5)教育・啓発関連資料、出版物の作成、発信それに伴う情報収集

2.事業計画

(1)トレーナーセミナー・研修会（関東、関西、九州）の開催

(2)登録（上級）トレーナー養成プログラムの再構築および実施

(3)ホームページおよび関連機関誌を通じてコンディショニング（外傷・傷害予防・パフォーマンス発揮）情報の発信

(4)日本代表チームおよび代表事業、大学、高校、女子へのアスレティックトレーナー環境の整備・支援

(5)競技会・大会へのアスレティックトレーナー支援

(6)教育・啓発関連資料の作成、発信

3.活動スケジュール

(1)トレーナーセミナー（九州 7 月、関東 2 月、関西 3 月）

(2)トレーナー研修会（関東・九州 7 月、2 月、関西 7 月、3 月）

(3)登録（上級）トレーナー養成プログラム（3 月）

アンチ･ドーピング委員会

1.ドーピング検査事業

(1)（一社）日本スポーツフェアネス推進機構が立案し、(公財）日本アンチ･ドーピング機構（JADA）が実施する検査に協力する。検査の調整監視役などに係る費用は toto 助成を活用する

(2)JADA および WR の居場所情報管理の対応についての指導助言を行う

(3)治療使用特例（TUE）申請手続きの指導助言を行う

2.アンチ･ドーピング教育啓発活動

(1)WR および JADA のアンチ･ドーピング教育プログラムに基づき、教育啓発活動を実施する､対面および e-Learning による研修開催、ハンドブックの作成などに関する諸費用は toto 助成を活用する

(2)各日本代表（男女)、リーグワン登録チーム（Div1～3)、各地域大学リーグ上位校および全国大学選手権出場校に対して情報提供、関連資料の送付、アンチ･ドーピング研修会を実施する

(3)ジュニア世代（中学生、高校生）を対象に全国大会試合会場にてアウトリーチプログラムなどを実施する。参加者並びにプログラム効果を高めるため、協力アスリートの参加を要請する

(4)日本代表、リーグワン、大学リーグ、全国大学選手権などの国内開催試合でアンチ・ドーピング啓発活動を可能な限り実施する

(5)コロナ禍に応じたニューノーマルなアウトリーチプログラムとして、アバターを通した教育資材・プログラムの開発

(6)ラグビー関係者からの禁止物質に関する問い合わせに対応する。二次元バーコード・電子問い合わせフォームでの運用を改善し、問い合わせが簡便にできるよう工夫する

(7)研修会で使用するアンチ･ドーピング確認テストを toto 助成により作成する

(8)協会ホームページなどでアンチ･ドーピングへの取組、情報などを発信する

(9)アンチ･ドーピング教育活動者への研修を充実させる

(10)安全インテグリティ推進講習会にて、全チームの代表者に対して、アンチ･ドーピングの基本的事項の講習を行う

(11)安全インテグリティ推進､アンチ･ドーピング啓発およびアスリートの健康の観点より、薬剤師による薬物濫用防止をすすめる

アスリート委員会

1.事業方針

「アスリートファースト（プレイヤーズファースト）の理念の実現に向けた活動」を基本方針とし、全ての国民、特にラグビー競技者、指導者、保護者、並びにラグビーをする、見る、支えることを希望する将来を担う子供たちに向けてラグビーへの信頼を維持・確保する。そのため、本委員会委員を通じて選手の意見をくみ上げ、組織運営に反映させる取り組みを実施していく

2.重点課題

(1)安全推進

「するスポーツ」として定着させることを目指す。2021-2024 のラグビーでの安全対策の徹底により、ラグビーが安全なスポーツであるというイメージの定着を図る

(2)安全対策の責任者の質的改善

代表以外に各カテゴリーにおける安全管理プロセスの確立。日本発で世界をリードするような安全管理プロセスの実現を目指す。特に脳振盪問題に関しての課題解決策を創出し、他部門と連携し実践する（安全対策委員会、脳震盪作業部会、高校体育連盟ラグビー専門部、普及育成部門、技術部門、女子委員会他との連携）

(3)インテグリティ教育の実践

選手の環境と価値を守るため、インテグリティ教育コンテンツの充実と継続した教育による、指導者、選手の理解の深化。インテグリティ事案発生時の原因の把握。（リーグワン、インテグリティ推進部門、女子委員会他との連携）

女子委員会

女子ラグビー発展のために、女性の地位向上、ジェンダー平等を目指し、女性が活躍し、長くラグビーに関われる環境を整える

1.情報発信

広報部門、プロモーション部門との連携し、女性の様々なカテゴリーでの活躍や情報をしっかりと発信する

(1)女子ラグビーの認知度向上（動画配信）

(2)ラグビーワールドカップ 2021、ラグビーワールドカップセブンズ 2022 応援プロジェクト(応援の SAKURA WAVE を起こそう！)

(3)セブンズ、15 人制で活躍している選手の紹介並びに情報発信

(4)様々な情報をより多くの選手や OG に発信できるようオンラインツールの整備

(5)代表活動、大会、講習会の情報発信

2.普及基盤整備

普及育成部門、ユース委員会、大会運営部門と連携し、女子競技者の増加を図るとともに各カテゴリーの大会の整備やユースキャンプの実施により、選手、指導者、レフリーなどの育成環境を整える

(1)Regional Women's Sevens

(2)U18 女子花園エキジビション

(3)大学女子 7 人制ラグビーフットボール交流大会

(4)女子育成強化プログラム

(5)女子ユースキャンプ

3.女性の活躍とジェンダー平等の推進

各委員会・部門との連携を徹底し、女子ラグビーの発展、女性の活躍推進、ジェンダー平等を進める。また、委員会や講習会、大会などにおいて関わっていただける女性の数を増やす

(1)支部協会　都道府県協会、各女子委員会との連携

(2)広報部門　女子活躍の情報発信、様々な情報の発信

(3)普及育成部門　女子ラグビーの普及イベント（女性タグラグビー大会)、女子の普及育成の拠点づくり

(4)コーチ　女性指導者を増やす、女性指導者のレベルアップ(A 級、S 級取得者の増加)

(5)レフリー　女子レフリーを増やす、女子レフリーのレベルアップ（B 級、A 級取得の増加)

(6)大会運営部門　各大会の整備、運営（太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ、全国選手権)

(7)ユース委員会　各大会の整備、イベント (U18 女子セブンズ、U18 花園 15 人制)

(8)メディカル委員会　婦人科との連携、SKIP（膝の傷害予防）プログラムの推進

(9)安全対策委員会　脳震盪など女性特有の問題に対する対策

(10)国際部門　World Rugby、Asia Rugby との連携

(11)代表強化部門　研修・活動ができる場所の提供　代表チームの活動方針を共有、TID キャンプ、セブンズアカデミーとの連携

ハイパフォーマンス委員会

1.事業計画

(1)各カテゴリー日本代表ヘッドコーチ選考に関する資料など作成および更新

(2)世界各国のヘッドコーチ動向などの情報収集

(3)強化拠点整備に必要とされる HP 機能、施設などの助言

(4)代表強化部門および技術部門との連携

ラグビー競技における脊髄損傷への再生医療適応プロジェクト

1.目的

ラグビーワールドカップ 2019 レガシー事業の一環として、再生医療領域における先端の医療機関の協力のもとプロジェクトチームを構成し、ラグビー競技における脊髄損傷への再生医療の適応を推進する

2.事業計画

(1)委員会の開催（隔月）

(2)シンポジウムの開催（秋～冬開催検討）

(3)研究機関への支援の検討

(4)脊髄損傷発生時の搬送システム構築検討

(5)プロジェクトの広報活動

支部協会

関東ラグビーフットボール協会
関西ラグビーフットボール協会
九州ラグビーフットボール協会

関東ラグビーフットボール協会

1.全体事業・スケジュール

JRFU 主催試合（全国大会含む）の関東エリア開催試合の主管、国際試合の試合主管、関東協会年次総会の開催（6 月 11 日）、都道県協会主催の各種講習会への協力・支援、国体ブロック大会の開催（北海道、東北、関東、北信越）

2.関東協会主催試合・大会の開催

(1)地区高校各種大会の主催（北海道、東北、関東、北信越、都県対抗戦、新人大会、合同大会、女子大会）
(2)地区中学校各種大会の主催（北海道、東北、関東）
(3)地区ラグビースクール各種大会の主催（北海道、東北、関東）
(4)ミニジャンボリー、ジュニアジャンボリー大会の主催
(5)大学試合の主催（対抗戦、リーグ戦、ジュニア選手権、地区対抗、北海道、東北、医歯薬系、理工系、学生クラブ、関東大学春季大会などの主催）
(6)女子大会の主催、女子ラグビーの普及育成活動
(7)クラブ大会の主催（東日本クラブ、関東学生クラブ、クラブセブン、マスターズ）
(8)関東社会人リーグの主催
(9)トップイーストリーグの主催

3.レフリーの発掘・育成・ランクアップ

(1)Ｂ級レフリー認定講習会、都道県レフリー研修会の支援、女子レフリーの発掘、育成
(2)レフリーコーチの育成、研修会、海外レフリーとの相互交流
(3)公式戦へのレフリー派遣

4.指導者育成

(1)C級コーチ講習会の開催
(2)ミニラグビー指導者講習会の実施
(3)チームスタッフ関係者との意見交換会

5.メディカル

(1)マッチディドクターの派遣、養成
(2)メデイカルコミッショナーの派遣、養成
(3)関東協会メディカル総会の実施
(4)ラグビー傷害の学術的研究
(5)登録者傷害見舞金制度の運用、審査、支給事業

6.広報・公聴活動

(1)ホームページの運用
(2)報道各社へのプレスリリースの作成

関西ラグビーフットボール協会

1.活動方針

関西協会ビジョン「関西 22 府県がひとつになって、ラグビーをする人、見る人、支える人の輪を拡げる」を着実に実行していく。普及・育成・強化・社会貢献の 4 つの柱で、仲間とともにラグビーの発展のために活動していく

2.事業計画

通年行っている各委員会の活動に加え、以下の新規事業を 2022 年度中に実施する

(1)U15 普及育成部門

ブロック毎の中学校部門・中学スクール生合同ジャンボリー大会の開催　少人数のチームも大会に参加できるような大会にする

(2)社会人委員会

各地域交流試合（シーズン終了後)、社会人全国大会　関西協会としての構想、今後支部での協議が必要

(3)クラブ委員会

関西シニア大会の開催（岡山県美作ラグビー・サッカー場）　シニアチームへの登録意向での会員維持、未経験や競技にブランクのある新規登録会員の増員が期待できる

(4)大学委員会

関東学生チームとの交流試合　春季交流戦への関西チームの参加、東西対抗戦（学生代表）の復活

(5)女子委員会

「関西ウィメンズラグビーフェスティバル（仮称)」の開催　関西 22 府県に登録されている女子チーム全てが参加できる大会を開催することで、女子ラグビーの底上げを継続的に行っていく

3.活動スケジュール

（4 月）関西セブンズ（大学の部 12 チーム、社会人・オープンの部 12 チーム）

（5 月）一宮セブンズ（22 府県から参加)、関西大学春季トーナメント（～7 月）

（6 月）太陽生命カップ全国中学生大会関西地区予選（女子の部 7 人制)、関西女子中学生春季大会、太陽生命カップ全国中学生大会関西地区予選（スクールの部)、関西ミニジャンボリー交流大会、関西高校少人数校ラグビー交流大会・普及指導講習会

（7 月）関西中学生大会・関西中学生ジャンボリー

（8 月）国民スポーツ大会ブロック予選（少年・成年・女子）

（9 月）トップウェストリーグ（～12 月)、関西クラブ大会、全国クラブ大会ブロック予選（～12 月)、関西大学リーグ（～12 月）

（10 月）全国小学生タグ選手権大会各府県協会およびブロック予選（～1 月)、全国ジュニア大会（女子）関西地区予選および秋季交流大会、ラグビーマガジンカップ関西ミニラグビー大会

（11 月）全国ジュニア大会近畿ブロック予選（男女)、交流会、女子ラグビー関西大会（～12 月：全国女子ラグビーフットボール選手権予選）

（12 月）東西学生クラブ対抗試合、全国高等学校ラグビーフットボール大会（～1 月）、クリスマス CUP 関西小学生タグラグビーチャンピオンシップ
（3 月）関西スクールジュニア新人交流大会、サニックスワールドユース、女子セブンズ関西予選会

九州ラグビーフットボール協会

1.レフリー委員会

(1)各県委員長会議（6 月佐賀、12 月福岡、2 月未定）、副委員長会議（福岡、2 回）
(2)レフリー研修会　九州地区トップレフリー研修会（8 月）、九州地区レフリー研修会（8 月）、九州地区 B 級レフリー認定講習会（8 月）、支部協会トップレフリー研修会（8 月、菅平）
(3)各県巡回指導研修会　1～3 月各県
(4)レフリー研修会講師派遣　年 6 回程度各県
(5)レフリー派遣　通年各地
(6)レフリーコーチおよび評価　通年各地
(7)コーチ・アセッサー研修会（JRFU エデュケーター認定講習会）（2 月、福岡）
(8)レフリー評価委員会（2 月、福岡）
(9)九州アカデミー研修（各地）
(10)女子レフリー研修会　東日本ジャンボリー大会・研修会（7 月、菅平）、全国女子ラグビー大会 MO 参加（通年）、女子集合研修（2 月）
(11)海外交流（11 月、ロンドン）

2.社会人委員会

(1)第 58 回九州セブンズ（木元杯全九州 7 人制）大会（4 月 9～10 日、八代）

(2)第 40 回九州地区国民体育大会（成年の部）（8 月、福岡）
(3)トップキュウシュウリーグ戦（9～11 月）
(4)トップキュウシュウリーグ戦入替戦（12 月）
(5)トップキュウシュウリーグ代表者会議（8 月、2 月、福岡）

3.クラブ委員会

(1)各県クラブ委員長会議（6 月 4 日福岡、11 月 19 日佐賀、総務委員会 5 月、8 月、10 月、1 月福岡）
(2)第 41 回九州惑大会（6 月 4～5 日、福岡）
(3)第 18 回九州トップクラブリーグ戦（9～12 月）
(4)第 48 回全九州クラブ・実業団大会（11 月 18 日、20 日、決勝戦 12 月 11 日、佐賀）
(5)九州トップクラブ入替戦（1 月 15 日）
(6)第 30 回全国クラブ大会（1～2 月）
(7)第 3 回おきなわ惑フェスティバル（2023 年 1～3 月沖縄、順延し 2021 年度第 40 回九州惑大会記念大会）

4.大学委員会

(1)会議および講習会
大学委員長会議（7 月、12 月、福岡）、普及指導講習会（2022 年 3～9 月各県）
(2)第 61 回九州商経大学大会（6 月、大分）
(3)九州地区大学大会（インカレ）（12 月大分、宮崎）
(4)第 30 回九州学生リーグ戦（9～11 月、福岡他）
(5)第 21 回九州学生Ⅲ部優勝決定戦（11 月、沖縄）
(6)九州学生リーグジュニア戦（9～11 月、福岡他）
(7)九州学生リーグ入替戦（12 月）
(8)第 59 回全国大学選手権（11～12 月、福岡他）

5.高専委員会

(1)第 30 回九州高専チームリーダー講習会（2022 年 3 月、各県）
(2)第 30 回九州高専新人大会（5 月、各県）
(3)九州高専委員長会議（11 月、各県）
(4)第 57 回九州地区高専大会（11 月、各県）
(5)第 52 回全国高等専門学校大会（1 月、神戸）

6.高校委員会

(1)サニックス 2022 ワールドユース交流大会(4 月 28 日～5 月 5 日、福岡）
(2)第 12 回全国高等学校女子合同大会　九州代表選考会（5 月 21～22 日、福岡）
(3)第 75 回全九州高等学校大会（九州高体連主催）（6 月 17～21 日、長崎）
(4)九州高体連ラグビー専門部委員長会議（6 月 18 日、長崎）
(5)九州高校強化委員会（6 月 18 日、長崎）
(6)U17 九州代表選考合宿（7 月 2～4 日、湯布院）
(7)U16 九州ブロックトレセン（7 月 2～4 日、湯布院）

(8)第 12 回全国高等学校女子合同大会 九州代表強化合宿（7 月 9～10 日、福岡）
(9)第 42 回九州地区国民体育大会（8 月 26～28 日、熊本）
(10)第 4 回九州高校 U18 女子セブンズ大会（9 月 17～18 日、福岡）
(11)第 102 回全国高校選手権大会各県予選（10 月～各県）
(12)第 14 回U16U17 九州交流会（12 月 3～4 日、福岡）
(13)サニックス 2023 ワールドユース交流大会予選会(1 月 1～5 日、福岡）
(14)第 45 回木元杯全九州高校新人大会（2 月 10～15 日、沖縄）
(15)第 10 回九州高等学校選抜女子セブンズ大会（2 月 12 日、沖縄）
(16)九州高校委員会および強化委員会（2 月 11 日、沖縄）
(17)2023TID ユースキャンプ西日本トレセン（九州・中国・四国）（3 月 3～5 日、山口）
(18)次年度U17 九州代表候補合宿（3 月 4～6 日、湯布院）
(19)第 24 回九州高校 10 人制大会（3 月 17～19 日、福岡）

7.コーチ委員会

(1)各県委員長会議（6 月、1 月）
(2)JRFU コーチカンファレンス（6 月）
(3)S 級コーチ養成講習会
(4)A 級コーチ養成講習会（九州 7 月 20～24 日福岡、関東 6 月 15～19 日埼玉、関西 7 月 13～17 日関西、自己推薦　2 月 8～12 日埼玉）
(5)トップアスリート推薦者講習会（6 月 15～19 日、埼玉）
(6)九州協会コーチカンファレンス（兼）A 級コーチブラッシュアップ研修会
(7)B 級コーチ養成講習会(1 月 12～15 日福岡、10 月 7～10 日埼玉、11 月 17～20 日大阪、12 月 15～18 日愛知、12 月 22～25 日長野）
(8)ブラッシュアップ講習会（各県）
(9)新スタートコーチ養成講習会（各県）
(10)その他、コーチ委員会として必要な事業（随時）

8.中学委員会

(1)第 1 回各県委員長会議（4 月 2 日、福岡）
(2)第 44 回新島杯九州ジュニアラグビー大会(7 月 29～31 日、鯛生）
(3)第 5 回九州女子中学生ラグビー大会（7 月 30～31 日、鯛生）
(4)第 2 回各県委員長会議（7 月 30 日、鯛生）
(5)第 35 回新島旗九州中学校ラグビー大会（7 月 31 日～8 月 2 日、鯛生）
(6)第 23 回ジュニアラグビー九州ブロック大会（男子・女子、10 月 8～10 日、熊本）
(7)第 3 回各県委員長会議（10 月 9 日、熊本）
(8)九州ジュニアインストラクター会議（10 月 8～9 日、熊本）
(9)第 24 回九州ジュニアラグビー福岡ジャンボリー(1 月 21～22 日、福岡）
(10)第 24 回九州ジュニアラグビージャンボリー（2 月 18～19 日）
(11)ジュニアラグビー指導者講習会（随時、各県）

9.普及育成委員会

(1)会議・研修会

普及育成担当者研修会委員会（5 月 14～15 日、福岡)、タグ部門長会議（兼全国タグラグビー打合せ）(6 月 25～26 日、佐賀)、ラグビースクールプロモーション講習会（7 月 16～17 日、福岡)、タグラグビーエディケーター講習会(8 月 20～21 日､鹿児島)､九州 MRR 認定講習会（9 月 23～25 日、鹿児島）

(2)ミニラグビー

第 49 回九州少年ラグビー交歓会（9 月 23～25 日、鹿児島）

第 23 回西九州ブロック交流大会（10 月 22～23 日、佐賀）

第 23 回東九州ブロック交流大会（11 月 26～27 日、宮崎）

第 23 回南九州ブロック交流大会（12 月 3～4 日、鹿児島）

第 15 回沖縄県ブロック交流大会（2 月 11 日、沖縄）

第 11 回トライドリームカップ（11 月 4～6 日、長崎）

九州女子ミニラグビー交流会（2 月 26 日、熊本）

(3)タグラグビー

九州タグフェスタ（9 月 25 日、熊本）

パナソニックタグフェスタ（各県）

タグラグビーティーチャー研修会（各県）

第 17 回九州女子タグラグビー大会（11 月 13 日、鹿児島）

第 19 回全国小学生タグラグビー大会予選（沖縄ブロック 12 月 18 日、沖縄、九州ブロック 1 月 22 日、佐賀）

10.安全対策委員会

(1)高専リーダー講習会にて研修会（4 月、熊本）

(2)安全インテグリティ推進講習会（4～5 月、各県）

(3)セーフティーアシスタント認定講習会（4～7 月、各県）

(4)2023 年度安全インテグリティ推進伝達講習会（1 月、福岡）

(5)2023 年度九州協会スケジュール会議において研修会(2 月 11 日、福岡）

(6)九州メディカル・安全対策委員会合同総会（委員長会議）(3 月、福岡）

11.強化・セレコン委員会

(1)第 58 回九州セブンズ（木元杯全九州 7 人制）大会（4 月 10～11 日、熊本）

(2)大学生合同練習指導（6 月、9 月、熊本）

(3)トップキュウシュウリーグ A・九州学生リーグ視察

(4)強化・セレコン委員会（九州代表セレクト会議）

(5)支部強化委員長会議

(6)九州アイランド 7‘S（新規、7 月、福岡）

12.総務委員会

(1)会員名簿の作成（8 月）

(2)主要スケジュール、メンバー表の作成、配布

(3)九州および各県公式記録の編集のデータ化（10 月 1 日）

13.広報委員会

(1)JRFU 機関誌への投稿記事作成

(2)九州協会公式ホームページ、SNS などでの情報発信

(3)九州エリアメディアカンファレンス開催（12 月、福岡）

(4)各県広報委員長会議（11 月、福岡）

(5)メディアへの情報発信、情報交換

(6)報道機関への大会など開催および結果リリース

(7)主要大会の LIVE 配信

14.メディカル委員会

(1)公式戦マッチディドクター派遣（通年）

(2)九州メディカル総務委員会（9 月、3 月、福岡）

(3)九州協会メディカル委員会・安全対策委員会合同総会（3 月、福岡）

(4)日本代表チーム帯同医師派遣への協力（合宿時メディカルサポート）

(5)リーグワン・メディカルコントロール

(6)WR メディカル資格講習会開催

(7)新型コロナウイルス感染防止対策アドバイス

(8)医療器具新規購入・器具修理（新規）

(9)マッチディドクター講習会（新規）

15.女子委員会

(1)女子委員長会議（4 月、12 月、熊本）

(2)サニックスワールドユース女子セブンズ大会（4 月、福岡）

(3)南部九州女子交流大会（5 月、鹿児島）

(4)北部九州女子交流大会（6 月、佐賀）

(5)第 10 回九州ガールズフェスタ（12 月、熊本）

(6)サニックスガールズセブンズキャンプ（3 月、福岡）

(7)九州ウィメンズセブンズ（2 月、福岡）

16.マーケティング委員会

(1)賛助会員募集強化策の検討・実施（福岡）

(2)スクラム組もうぜ九州　施策実施（福岡）

(3)九州協会公式ホームページ、SNS の活用（福岡）

(4)マーケティング委員会開催（福岡）

(5)メディアとの意見交換会

17.登録者傷害見舞金運営委員会

(1)登録管理

各県各月登録状況管理、登録費入出金管理、登録費決算管理(4 月)、登録関連資料作成、

(2)傷害見舞金管理

傷害報告受付管理、傷害見舞審査会（毎月）、傷害見舞金払出管理（毎月）、傷害見舞金決算管理（4 月）、傷害見舞関連資料作成管理